

Bellflower



神戸薬科大学

図書館ニュース

No.29 2003. 4



Part 1 (新着資料から)

BOOK 『On-line LC-NMR and Related Techniques』 (John Wiley & Sons, 2002)

信頼性の高い分離分析法液体クロマトグラフィー(LC)と、化合物の構造情報を与えるという点で優れた分析法である核磁気共鳴法(NMR)とが直結することは、我々薬学だけでなく、生化学、医学、天然物化学、環境化学など広い分野に関わる者にとっての夢でした。この発想はかなり早くからあったにも関わらず、実用化され市販の装置として実際に使えるようになったのはここ数年のことです。その意味で、この本は、ホットな話題を提供してくれる本と言えます。

この分野の先駆的な研究者の分担執筆ですが、その内容は、原理から応用、そして将来展望に至るまで幅広くカバーされています。理論や実験については丁寧な説明がなされていて、すでにLC-NMRを使っている人にも、改めて基本をしっかりと

り理解する助けになる本です。しかしこの本の一番の魅力は、豊富な応用例です。上に挙げた広い分野での実際の応用例が披露されており、LC-NMRって何に使えるのだろうかと思っている人、使ってみたいと思っている人には、うってつけの本と言えます。さらにこの本の特徴は、LC-NMR-MS(質量分析)やGPC(ゲル浸透クロマトグラフィー)、SFC(超臨界流体クロマトグラフィー)-NMR、さらにC-13の観測の可能性についてなど、新しい展開についても、詳しく述べられていることです。

LC-NMRに少しでも興味のある人には、必読の一冊です。

杉浦真喜子 記

一般雑誌 『患者のための医療』 (篠原出版新社 2002.4.1創刊 年4回刊)

医療とは患者さんのための行いであることは言うまでもない。しかし、近年、医療に携わる人々の意識改革が問われるようになってきている。それは何故か? 実際の医療の現状は? より良質な医療とは? 日本の医療制度の方向は? 本誌は医療現場の問題点をさまざまな角度から取り上げ、その解決策を考える場を提供している。患者さんの安全をめざし医療事故情報を掲載し、医療事故訴訟の検討と問題点の所在を探索しているのも特徴である。構成は、特集、連載、シリーズ、リレー・エッセイ、寄稿などからなり、連載は、医療事故学、EBMと診療ガイドライン、選べる医療、先端医療・医学研

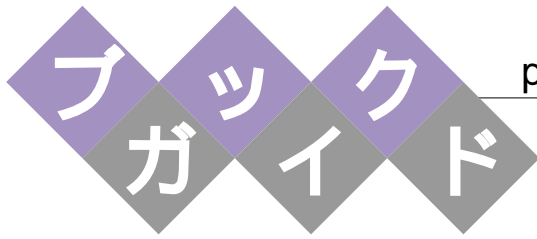
究と法・倫理、患者と薬、医療社会学事始、キーワードの逆説、シリーズは、医療鑑定の研究などである。

著者は、弁護士、法学者、医師、薬剤師、患者さん、医療事故被害者、医療ソーシャルワーカー、医療問題研究者などに多彩。その他医療関連情報及び国内編と海外編の医療関連サイトWatchingがあり、新刊書情報では本誌に関係する多くの書籍を紹介しており、新しい情報を得るのに便利。広い視野をもって医療全体を見渡す度量を養うことは大切である。本誌はその助けになる一誌であると言えよう。

富田尚子 記

もくじ CONTENTS

ブックガイド(新着資料から) 杉浦真喜子・富田尚子...1	SciFinder Scholarバージョンアップについて.....6
ブックガイドpart2(専門分野別) 堀坂和敬.....2	グラフと表で見る図書館統計.....7
世界の図書館を訪ねて(12) 赤井朋子.....3	薬剤師のためのDI資料(12) 長嶺幸子.....8
受入図書から.....4~5	お知らせ.....8
SciFinder Scholarを利用して 難波めぐみ.....6	


 part 2 (専門分野別)
BOOK GUIDE

“生活習慣病”

 名誉教授
堀坂 和敬


「生活習慣病」という名称は行政用語である。新聞、テレビなどのマスコミならびに医療サイドでもこの名称は定着している。本学の第28回卒業後教育講座（昨年9月）でも「生活習慣病の予防と治療」をメインテーマとして、総論「疫学」

高脂血症 脳血管疾患 糖尿病 高血圧 加齢と血管障害の6コマが講演された。疾病の発症要因には、遺伝的要因、外部環境要因（病原体、有害物質、ストレスなど）、生活習慣要因の3つがあると考えられている。第二次大戦後、日本人の疾病構造は大きく変わり、国民病ともいわれた結核を含む感染症による死は激減し、これに替わって癌、脳卒中、心臓病が死因の1位から3位を占めるようになり、これらの危険因子となる高血圧症、糖尿病、高脂血症は40～60歳の成人期に頻度が高くなることが明らかとなった。厚生省はこの点に注目し、1957年これらの疾病を「成人病」（行政用語）と総称して早期発見・早期治療を行うことが疾病発症の予防に効果的であると認識し、定期検診の普及に努め成果をみた。その後、成人病の発症や進行には生活習慣が深く関わっていることがわかり、これを改善することによって成人病の発症と進行を予防できることが明らかになった。この生活習慣を若いうちから自覚させて健康を増進すれば、いわゆる成人病の発症を予防できるとの結論に至り、1997年に「成人病」を「生活習慣病」と変更するほうがより適切であるとして導入された。「生活習慣病」は、過食、間食、運動不足、働き過ぎ、喫煙、多量飲酒などの生活習慣が、その発症・進行に関与する疾患群である。

一般向けの『「生活習慣病」がわかる本』（日野原重明、ゴマブックス）は「習慣病」という名称を提唱してきた著者が解説している。『生活習慣病の理解』（小坂樹徳、文光堂）は、著者（医師）が関与している会社の役・職員の健康管理

のために、一般教養として理解できるレベルで10回にわたって行った講演録を多数の図表を加えてまとめている。『生活習慣病』（田上幹樹、ちくま新書）は、著者（東京・三楽病院の医師）が経験した症例を紹介して、生活習慣と病気がいかに密接に関係しているかを証明している。『生活習慣病を防ぐ七つの秘訣』（田上幹樹、ちくま新書）も同病院の生活習慣病患者200人を対象としたアンケート調査結果を分析して、食生活と運動の効果を明らかにしている。『生活習慣病の一次予防』（細谷憲政監修、川久保清他、第一出版）は、生活習慣病を予防するのに重要なキーワードである不定愁訴ならびに半健康状態を説き、女性に特有な生理現象（月経周期、更年期）と生活習慣の改善、さらに「食事摂取基準」（1999年答申）を加えた解説である。

生活習慣病にかかわる遺伝子に関する用語解説を中心に、最新の知識に基づいた疾患の概念を説いたものとして『生活習慣と遺伝子疾患』（堀内正嗣他編、メディカルレビュー社）がある。『生活習慣病の先端医療』（広瀬輝夫、メディカルトリビューン）は先天性の遺伝子や環境要因の中で発生する変性疾患を含む広義の生活習慣病を分析し、これを先端医学の視点のもとに解説している。

かつては発病後に初めて医師の診察を受けて、治療を行う（三次予防：治療、機能回復、機能維持）のが主流であったが、やがて定期検診による早期発見・早期治療（二次予防）の流れが生まれ、さらに今では発病以前に発病を未然に防ぐための健康を増進する一次予防の考えが主流になりつつある。図書館では4月から「生活習慣病」をテーマ展示として、40冊余りの関係書籍を揃えています。これらから得られる基礎知識を参考にして現在のライフスタイルを見直し、悪習慣の改善に取り組まれるよう期待します。

世界の図書館を訪ねて

12

ロンドン大学の図書館

講師 赤井 朋子

2001年4月から2002年3月までの1年間、私はロンドン大学ロイヤル・ホロウェイ・カレッジの客員研究員としてイギリスに滞在した。その間、ロンドン大学の中央図書館（University of London Library）とカレッジの附属図書館（Founder's Library及びBedford Library）を日常的に利用していたが、私には自然科学の分野の蔵書状況等についてはよくわからないので、ここでは文科系の研究者として自分が利用してみて便利であった点などを思いつくままに記していくことにする。

ロンドン大学の図書館との関わりは、日本を出発する前から始まっていた。と言うのも、出発前の主な準備の一つがホームページのOPACで蔵書検索することであったからだ。必要な資料の在処を事前にある程度把握しておくのにインターネットは実に役に立った。今どきインターネットの便利さに感心したなどと書くと失笑を買いそうではあるが、それでも一昔前に在外研究に出かけた人達と較べると、良い時代に渡英できたものだと思つづく。例えば、図書館のOPACは別の目的にも利用した。文科系の研究者にとって1年間もの長期に渡って海外に出かける時、自分自身の蔵書の中からどの図書をどれだけ持っていかということとは案外深刻な問題である。すでに目を通したもので、いつ何時また参照する必要が生じるかわからないからだ。その上に蔵書の多くがすでに在庫切れか絶版になっており、簡単に入手できるものでもない。しかしこの問題もOPACを利用することによって簡単に解決できた。とりあえず出張中の自分の研究対象（1920～30年代のイギリス演劇と検閲制度）に関連のある必要最低限の図書だけに限って検索したのだが、そのおかげで少なくとも150冊は日本から持ち出さずに済んだ。

ロンドン大学はいち早く図書館の電算化に着手した大学のように、他にも学外からのアクセスをできるだけ可能にして利用者の便宜をはかるうとする姿勢がいくつか見受けられた。全般的に言って、イギリスの大学は日本の大学と較べて情報をオープンにする傾向にあり、またインターネットも積極的に活用しているように思われる。例えば、わざわざ図書館に出向かなくても、学外のどこのコンピューターからでも、パスワードを入力してログインしさえすれば、自分が借りてい

る図書の貸出期間を延長するなどの手続きが簡単にできたり、また、レファレンス類のデータベース（例えばMLA International Bibliography）等についても、あらかじめユーザー名とパスワードをもらえば、自宅に居ながらにしてログインし検索できたりもする。セキュリティの点で問題はないのだろうかという疑問も抱くが、大変便利ではあった。

遠隔利用の話ばかり書いてしまったが、学期中に図書館に出かけると、いつも多くの学生が熱心に勉強している光景を目にした。イギリスでは人文科学系の学部の場合、授業はたいてい教師と学生との議論が中心となるので、学生は授業の前にあらかじめ本を読んだ上で自分の考えをまとめておかなければならない。したがって図書館に行くと、黙々と読書に耽っているというよりは、図書に目を通しながら懸命に自分の考えをノートに書き記している学生の姿を多く目にする。日本の大学の図書館とは随分違った光景であり、オリジナリティのある発想と議論の力を育てる文化圏にいるのだということをしみじみと感じさせられた。

学生による図書館の利用率が高いのは、一つには物価が高く図書を自分で購入することが少ないからであると言えるだろう。イギリス人は一般的に日本人ほど物を買わず（あるいは買えず）、消費を押さえる傾向にある。それだけに公共の施設に対する期待や要望が高いのも頷けることである。例えば講義のシラバスには、各科目毎に開講日までに読むべき課題図書が何冊も（時には何十冊も）記されているが、必ず図書館の図書番号も併記されている。また、誰もが公平に資料にアクセスできるように、貸出中の図書であってもリクエストをすれば数日中に図書の現物を借りることができるシステムになっている。（逆に図書を借りている側の立場で言えば、返却日前であっても、他の利用者の希望があれば、数日以内に返却せよというメールが図書館から届くのである。）他に、図書の貸出については、返却期限を守らずに他の利用者に迷惑をかけることは重く受けとめられているらしく、延滞料の支払いが義務づけられているのである。

以上、とりとめなく書いてしまったが、イギリスの大学図書館についてのほんの一面を、感想程度にご報告させていただいた。

2002年
(平成14年)
4月～9月

受入図書から

今回より「受入図書から」をリニューアルしました。5pには教職員の方々に図書の紹介文を執筆していただいています。皆さんにより図書に親んでもらえたなら、と思います。

書名	著者名	出版社
これから論文を書く若者のために	酒井聡樹	共立出版
インターネット時代の化学文献とデータベースの活用法	時実象一	化学同人
薬学のための物理化学	西庄重次郎編著	化学同人
機器分析化学	今井一洋他	丸善
有機合成創造の軌跡	有機合成化学協会編	化学同人
マクマリー生物有機化学1-2	McMurry, Castellion	丸善
有機反応のしくみと考え方	東郷秀雄	講談社
ヘテロ環の化学	國枝武久他	化学同人
星空散歩ができる本 南半球版	Milton D. Heifetz	恒星社厚生閣
生命科学物語	横田幸雄	東海大学出版会
できるバイオインフォマティクス	広川貴次他	中山書店
ゲノム工学の基礎	野島博	東京化学同人
スキルアップのための医療コミュニケーション	保坂隆他	南山堂
人体市場	L. アンドルーズ、D.ネルキン	岩波書店
病が語る日本史	酒井シヅ	講談社
ヘルスサイエンス情報略語事典	永井恒司監修	ミクス
続EBM実践ワークブック	名郷直樹	南江堂
医薬研究者のための統計ソフトの選び方	奥田千恵子	金芳堂
水と活性酸素	生命・フリーラジカル・環境研究会編	オーム社
ヒトゲノムと遺伝子治療	本橋登	丸善
植物のparasitoidsたち	岸國平	八坂書房
生活習慣病のQ&A	中川雅夫編	ミネルヴァ書房
プリオン病の謎に迫る	山内一也	日本放送出版協会
阪大医学生が書いたやさしい「がん」の教科書	駒沢伸泰	PHP研究所
やさしいがんの痛みの自己管理	武田文和	医薬ジャーナル社
放射線治療医の本音	西尾正道	日本放送出版協会
アトピー性皮膚炎診療100のポイント	竹原和彦	南江堂
今日の在宅診療	川人明編著	医学書院
薬害エイズ裁判史 第1巻 - 第5巻	東京HIV訴訟弁護団編	日本評論社
医療の質	米国医療の質委員会医学研究所	日本評論社
薬局におけるコミュニケーション能力の開発と実践	William N. Tindall他	じほう
薬剤師が取り組む医療安全対策	日本薬剤師会編	薬事日報社
つながりの中の癒し	田邊信太郎他編	専修大学出版局
子供たちにタバコの真実を	平間敬文	かもがわ出版
暮らしにひそむ化学毒物事典	渡辺雄二	家の光協会
狂食の時代	ジョン・ハンフリース	講談社
茶の機能	村松敬一郎編	学会出版センター
大阪とくすり	米田該典編	大阪大学出版会
英語医薬論文の読みかた、訳しかた	鈴木伸二	薬事日報社
後発医薬品リスト	医薬情報研究所制作	じほう
日本医薬品企業の構造改革	井上良一	薬事日報社
薬剤師の会話レッスン	間辺利江	薬事日報社
病院・診療所薬局業務に役立つ薬剤師サポートブック	日本病院薬剤師会診療所特別委員会編	薬事日報社
医者が薬を疑うとき	別府宏園	亜紀書房
薬剤師が変える薬物治療	京都大学医学部附属病院薬剤部編著	じほう
薬物動態学 改訂2版	高田寛治	じほう
生命科学のための最新マスペクトロメトリー	原田健一他編	講談社
創薬サイエンスのすすめ	石川智久他編集	共立出版
注射剤の配合変化 第2版	福嶋豁行他	エフ・コピント

(化学、医学、薬学分野より一部抜粋)

『ハーバードの医師づくり』

同大学で1987年に始まった新カリキュラムにより、患者と医師の関係、学生と教授の関係が劇的に変化した。医師と教授は重なるから、要は医師=教授の、患者や学生に対する接し方が大改革を遂げたことになる。本書は、大学院生としての実体験記。どのように変化したかは実際に読んで欲しい。現在だけでなく、未来の教授たちに推薦したい。(春)

田中まゆみ著 医学書院



『日本人の生命を守った男』

日本が連合国によって統治された占領時代の保健・医療・福祉関係の政策を推進したGHQサムス准将の活動を描いたノンフィクションである。学校給食開始、伝染病対策、保健所整備など、日本人の健康をどのようにして守ってきたかが記述されている。特に第九章は本学図書館資料により調査されており、日本の医薬分業の歴史を知ることができ興味深い。(TK)

二至村菁著 講談社



『楽しい薬理学』

歴史に残る大発見が偶然から始まった例は多い。本書は薬にまつわる有名な発見の経緯を歴史的観点からいろいろなエピソードを交えてイラストつきで楽しく解説している。薬理学を無味乾燥な暗記科目と思っている学生、学問にロマンと人間味を求める研究者にお勧めの書である。一般人が読んで、誰でも知っているエピソードの奥深さに感動するだろう。(CY)

岡部進著 南山堂



『夜と霧 新版』

この本は、著者が第二次世界大戦中のユダヤ人収容所での体験記である初版(旧版)を30年後に再度見直して書かれた本です。この版は単なる収容所体験記ではなく、集団生活(「大学」もその一部かもしれませんが、)の「社会」、「歴史」、「人間」とは?を考えさせられる本です。20世紀を代表する初版も合わせて読まれる事をお勧めします。(H)

ヴィクトール・E・フランクル著 みすず書房



『異形の将軍 上・下』

「田中角栄がわからないと日本の政治の今はわからない。」生前はキングメーカーとして君臨し、没後10年を経た現在も、その功罪について言及されることの多い戦後最大の大衆政治家田中角栄。彼の生涯を辿ることは戦後日本の歩みを知ることであり、混迷を続ける現在の日本政治の根幹を辿ることである。戦後最大の「伝説」を描いた決定的歴史小説。(Y)

津本陽著 幻冬舎



『海馬』

本書は脳の「海馬」という部分を研究している東京大学薬学部助手の池谷裕二氏とコピーライターの糸井重里氏が脳をテーマに対談したものです。イラスト入りのテストがあったり、とてもわかりやすく脳のしくみについて書かれています。脳についての興味深い話が展開していき、読み終わると勇気や元気が湧いてくる一冊です。(M)

池谷裕二 糸井重里著 朝日出版社



SciFinder Scholarを利用して

薬品化学研究室 修士課程1年 難波 めぐみ

SciFinder Scholarは私の研究活動に欠かせない存在です。私は有機合成に関する研究を行っており、化合物や化学反応が検索対象になります。まだ4年生の特別実習生だった頃にはSciFinder Scholarがなく、Chemical Abstracts (CA) という分厚い抄録誌を利用して調べていました。これがとても大変な作業であり、調べたい化合物の分子式や環構造をもとに、“Formular Index”や“Index of Ring System”等からCA索引名を調べ、“Chemical Substance Index”でCA抄録番号を調べ、そしてCAで関連する文献を調べてやっと目的の文献にたどり着くことが出来ました。このように、非常に時間と手間がかかっていました。

本学でも2002年1月にSciFinder Scholarが導入され、大学院に入学してすぐ先生に使い方を教わりました。使い方はとても簡単で、構造式を入力し検索ボタンを押すだけで文献候補が表示されます。私が特に気に入っているのは、

反応式から文献を検索できる機能です。過去に似たような反応が行われていないかすぐに検索できるので、大変参考になります。また、完全に一致する構造以外に類似構造を持つものも検索できるオプション機能もよく利用しています。以前は図書館に行って重たい本を取り出し調べていたのが、今は研究室のパソコンから手軽に検索できます。従って、時間を有効に使い、より計画的に実験を行えるようになりました。

以上のようにSciFinder Scholarはとても役に立っており、私の研究活動の支えとなっています。一つだけ希望を言わせていただくと、同時に利用できる人数をもう少し増やしてもらいたいと思います。現状では、他の人が利用している間は使うことができません。そうすれば、さらに利用しやすいものになるのではないのでしょうか。今後もSciFinder Scholarを有効利用し、よい研究成果をあげたいと思います。

SciFinder Scholar2002 がリリースされましたが、ご活用されていますでしょうか？最新バージョンで追加された主な新機能や追加情報は以下の通りです。

立体化学構造による部分構造検索

部分構造検索において、立体化学情報を構造式に含めることができるようになりました。

より多くの関連情報へのリンク

反応検索結果から反応検索の回答中の反応関与物質から更なる反応情報を得ることができます。

特定の文献または文献の集合に収録された反応がGet Related機能により、クリック一つで入手できます。

化学物質検索の結果から各物質が生成物、反応物、試薬、触媒、または溶媒となっている反応を簡単に得ることができます。

収録情報の強化

化学物質に対して、従来の計算物性値に加え、実測物性値（沸点、融点、密度、旋光度、屈折率）が利用できるようになりました。この物性値を利用して回答を限定することもできますし、物性値の出典からその文献レコードへリンクすることもできます。この他1907 - 1985年の反応情報も追加されています。

雑誌の目次表示の強化

雑誌の目次を表示する際に、特定の巻号を指定することができるようになりました。

トピック検索の強化

検索の最初の段階で発行年、資料種類、言語、著者名、および会社名・大学名で限定することができるようになりました。

利用方法の詳細はすべてOnline Helpに含まれています。また、近日中に化学情報協会スタッフによる説明会が開催されますので、ぜひご参加ください。

グラフと表で見る 図書館統計

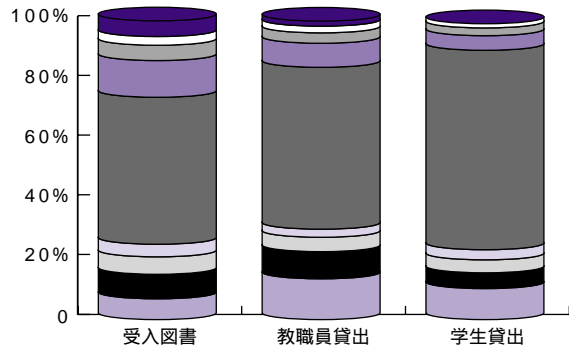
図書館では、各種サービスの利用状況を調査し、図書館運営の参考としています。本号から種々の調査結果をグラフと表で示していきます。今回は日本十進分類法（NDC）により分類した受入図書と貸出図書の相関について報告します。

受入図書：1991年度から2001年度の11年間で受け入れた備品扱い図書の統計

貸出図書：2000年10月（図書館新システム稼働開始時）から2002年12月までの貸出図書、同一の図書が複数回貸出されている場合も1冊と数えた。学生には学部学生、大学院学生、科目等履修生、聴講生を含む。

貸出率：2000年度～2001年度の受入図書が2000年10月から2002年12月の間に貸出された割合

1 日本十進分類法（NDC）、第1次区分表（類目表）による分類

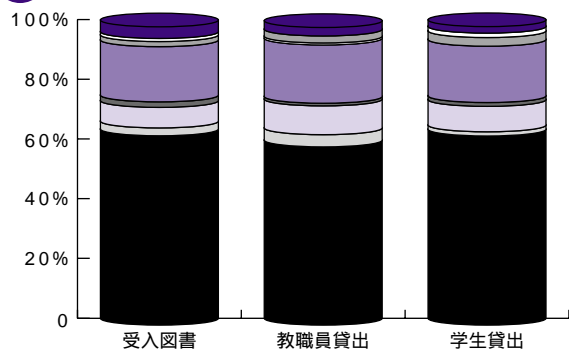


日本十進分類法、第1次区分表（類目表）		貸出率
0：総記		29%
1：哲学		34%
2：歴史		16%
3：社会科学		26%
4：自然科学		57%
5：技術		35%
6：産業、7：芸術、8：言語		44%
9：文学		54%
その他（小説、文庫本など）		70%

受入図書 4類（自然科学）が全体の約50%を占め、3類（社会科学）を次に多く受入れています。

貸出図書 学生は、4類（自然科学）の貸出が多く、その他（小説、文庫本など）は教職員、学生両方で多く貸出されています。

2 4類（自然科学）を第2次区分表（網目表）によりさらに分類

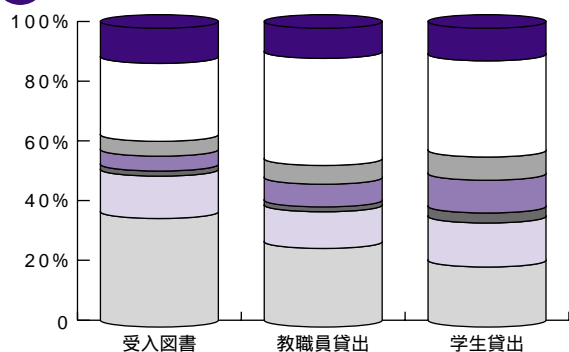


4類（自然科学）第2次区分表（網目表）		貸出率
40：自然科学		27%
41：数学		68%
42：物理学		17%
43：化学		61%
44：天文学、宇宙科学		50%
45：地球科学、地学		50%
46：生物科学、一般生物学		61%
47：植物学、48：動物学		32%
49：医学、薬学		59%

受入図書 医学、薬学（49）が60%以上を占め、続いて化学（43）を多く受入れています。

貸出図書 教職員と学生では物理学（42）と植物学（47）、動物学（48）に少し差が見られます。

3 49類（医学、薬学）を第3次区分表（要目表）によりさらに分類



49類（医学、薬学）第3次区分表（要目表）		貸出率
490：医学		62%
491：基礎医学		61%
492：臨床医学、診断・治療		66%
493：内科学		40%
494：外科学、495：婦人科学、産科学		43%
496：眼科学、耳鼻咽喉科学、497：歯科学		43%
498：衛生学、公衆衛生学、予防医学		59%
499：薬学		60%

受入図書 薬学（499）が最も多く、基礎医学（491）が続きます。

貸出図書 基礎医学（491）の貸出が最も多くなっています。今後、この分野の図書の充実を図る必要があると思われます。

薬剤師のためのDI資料 12

『薬剤師と栄養士 連携のための サプリメントの基礎知識』

堀 美智子編集
薬事日報社, 2002

最近の健康食品ブームもあって薬剤師も患者さんからサプリメントについて相談を受けることも多い。しかしそれらのサプリメントがどんな効果がどれくらいあるのか? その根拠は? 使用するときの注意事項は? 等いずれもあまり情報がない。本書ではそれらのサプリメントを適正に活用することを目的に、特定保健用食品を中心に情報がまとめられている。

前半部分では、日本におけるサプリメントの現状と分類について解説されており、食薬区分の見直しや摂取基準、表示

などについて解説されている。その他栄養学からみたサプリメントの活用法、また生活習慣病、スポーツ及び母子栄養とサプリメント等について各々どのようなものがあるのか、またその問題点や摂取上の注意などが解説されている。後半部分では特定保健用食品の成分解説と使用法及び栄養機能食品の概要について書かれている。主成分の作用、摂取上の注意、実験方法と結果、文献等が載せられており、適正な使用をすすめる上で非常に有用な資料となっている。

長嶺幸子記

2003年度学術洋雑誌及び電子ジャーナルについて

・冊子体から電子ジャーナルへ移行

- | | |
|---|--|
| 1 American Journal of Physiology. | 6 Journal of Neurochemistry. |
| 2 Drug Metabolism and Disposition. | 7 Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics. |
| 3 European Journal of Biochemistry. | 8 Molecular Pharmacology. |
| 4 European Journal of Clinical Investigation. | 9 Pharmacological Reviews. |
| 5 Journal of Experimental Medicine. | |

・日本薬学図書館協議会Springer LINKコンソーシアム(約250誌の電子ジャーナル・全文オンラインアクセス)
図書館ホームページにSpringer LINK電子ジャーナルを含む約600タイトルのリンク集を設けています。

・購読中止学術雑誌

- | | |
|--|--|
| 1 Accounts of Chemical Research. (US) | 8 Inorganic Chemistry. (US) |
| 2 American Journal of Health-System Pharmacy. (US) | 9 Journal of Natural Products. (US) |
| 3 American Journal of Medicine. (US) | 10 Magnetic Resonance in Chemistry. (GB) |
| 4 Chembiochem. (DE) | 11 Neurochemical Research. (US) |
| 5 Chemical & Engineering News. (US) | 12 Pure and Applied Chemistry. (GB) |
| 6 Chemphyschem. (DE) | 13 Quantitative Structure-Activity Relationships. (DE) |
| 7 Drug Development and Industrial Pharmacy. (US) | |

お知らせ

一般雑誌「薬のチェックは命のチェック」の継続購読を開始しています。
専門性の高い一般雑誌11誌を3階新着雑誌コーナーに配架場所変更しました。
2 - 4年次生及び大学院学生は「LIBRARY CARD」と学生証が一体化しました。
なお、1年次生は、従来の「LIBRARY CARD」となり、1年間のみ有効です。
学生自習室 ・ につきまして、試験前の4週間と試験中の休日(9:00 - 19:00)を2003年1月より開室しています。詳しい日時は3階出入口掲示をご覧ください。
4階展示コーナーに「生活習慣病」を展示しています。

神戸薬科大学図書館ニュース No.29

編集・発行 神戸薬科大学図書館

2003年(平成15年)4月1日発行

神戸市東灘区本山北町4丁目19番1号(〒658-8558)
TEL(078)441-7512 FAX(078)435-2080
URL <http://www.kobepharma-u.ac.jp/library>